

OKIグループ  
事業戦略説明会  
パブリックソリューション  
セグメント

2023年6月1日

執行役員

社会インフラソリューション事業部長 井上 肇

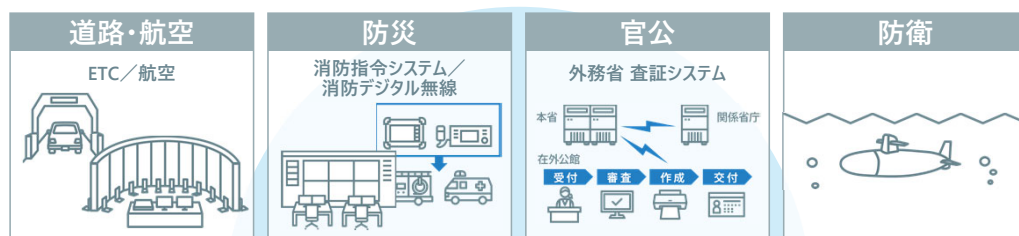
01 セグメントの概要

02 目指す姿

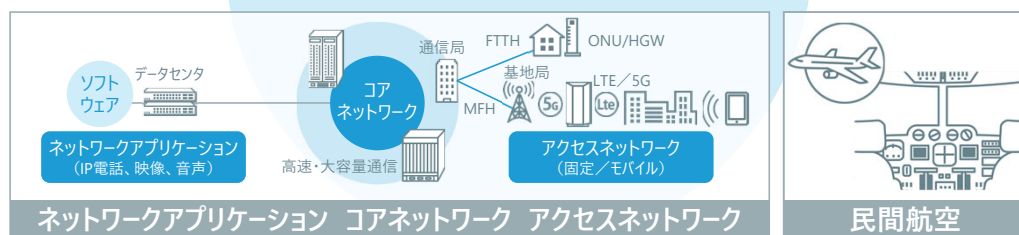
03 中計2025目標

04 重点施策/業務特化型PFによる新領域への参入 / グローバル展開に向けた準備 / 投資

## 交通、防災、防衛などのミッションクリティカルなシステムソリューションと エッジからバックボーンに至るネットワークを提供



## 通信インフラ×社会インフラソリューション で安全・安心・利便性を提供し社会に貢献



- 当セグメントの概要を簡単に紹介します。
- 交通領域では、ETC、料金システム、プローブ等道路交通情報の集約・分析・予測の道路系と航空管制の航空系、防災領域では消防指令・無線、市町村防災無線・防災情報システム、官公庁向けには、官公庁で扱う業務システム、通信キャリア中心ですが、エッジ端末からバックボーンに至るネットワーク、それに防衛系と民間航空のコックピットディスプレイを提供しています。
- 扱うソリューションはミッションクリティカルなものであり、安全・安心・利便性を提供して社会に貢献していくことをビジョンとしております。

ベース事業・新領域の両軸で、「社会のインフラ」に係わるお客様の期待に応える  
価値あるソリューションを提供し続け、お客様と共に成長・発展する

## 事業環境

- ・外部環境は改善
- ・ベース事業は端境期を脱却
- ・社会インフラ市場は拡大傾向

## 目指す方向

## 安心・便利な社会インフラ

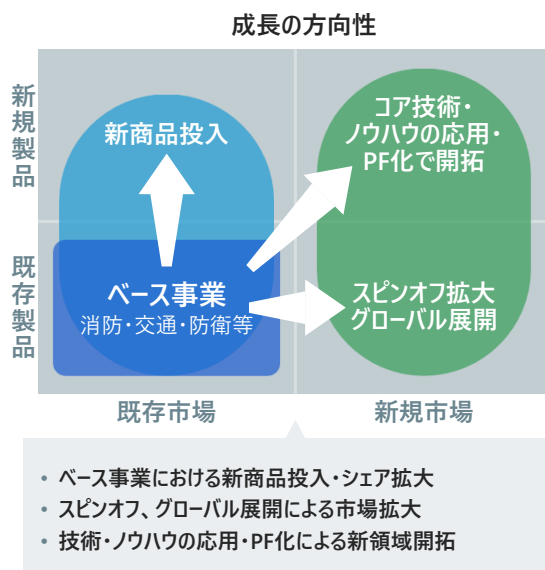
- ・ミッションクリティカルなインフラの整備、安定運用

## 地球環境の保全

- ・交通流の円滑化によるCO2削減
- ・海洋雑音の監視による海洋生物保護

## 働きがいと生産性向上

- ・公共サービス業務の効率化、労働力不足の解消

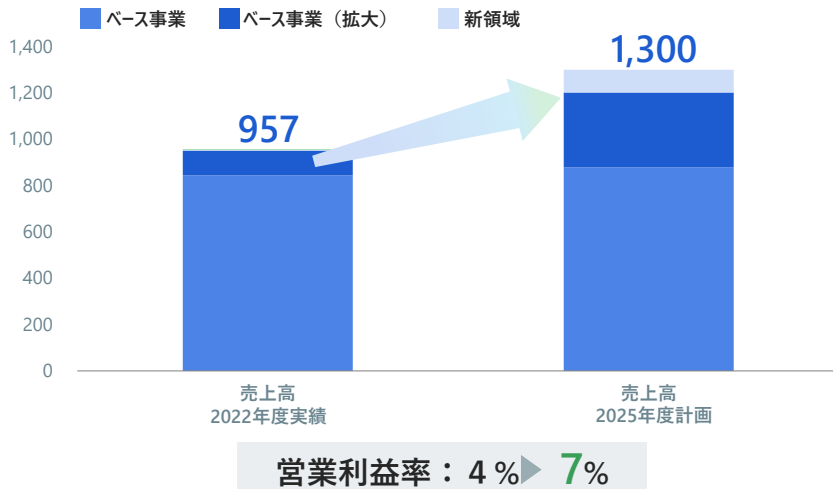


- 次に目指す姿です。
- ベースの事業と新領域の両軸で社会インフラに関わるお客様の期待に応える価値あるソリューションを提供し続け、お客様と共に成長し、事業も発展していこうと考えています。
- 事業環境をどう見ているかと言いますと、コロナ、サプライチェーン影響等の外部環境は回復すると見えていますし、ベース事業の更改・リプレイス案件も投資抑制が緩和し2031年にかけて更改、リプレイス案件が計画されている状況も確認できております。
- また、社会インフラ市場でも、グリーンインフラ、デジタル化への投資が拡大傾向であり、追い風となっていると捉えています。
- マテリアリティへの取り組みということで、社会の大丈夫を作っていくという全社キーマッセージを基に定義したマテリアリティに取り組み貢献することを目指していきます。
- 安心・便利な社会インフラでは、ミッションクリティカルなインフラの整備と安定運用を支えることで貢献します。
- 地球環境の保全という観点では、交通流の円滑化による渋滞解消などでのCO2削減や海洋雑音の監視などによる海洋生物保護などのデータ利活用にて地球環境の保全に貢献します。
- 働きがいと生産性向上では、利便性の高いソリューションを提供することにより現場業務の効率化、労働力不足の解消をすることにより貢献していきます。
- その中で、我々のセグメントで如何に成長していくかの方向性として右の4象限の図で示しています。

- ベース領域において、領域を拡大するため、差別化を強化していくための新商品の投入によりベース領域を拡大していく。
- ベースの商品をスピノフして別市場への展開、グローバルへの展開にて新市場への参入で拡大していく。例えば防衛の官向けの技術を使った光ファイバーセンサーを民間へ転用することを考えています。
- 我々が保有している無線、センシング、データ分析、予測技術やノウハウを活用して業務特化型のプラットフォームにてビジネスを新規開拓していきます。
- このように、ベース領域を拡大した状態をベースとして、さらに領域を拡大していくというサイクルを回していくことで成長していこうと考えています。
- ベースを確保すると変更・増設・保守もあり安定収益が望めるとも考えています。

2025年	売上高	営業利益	営業利益率
	1,300億円	95億円	7%

- ・ FY25は外部環境の回復、消防・防災市場の更改案件獲得によりトップラインは成長
- ・ トップライン成長・生産性向上により営業利益も良化、目指す姿の実現に向け活発に投資



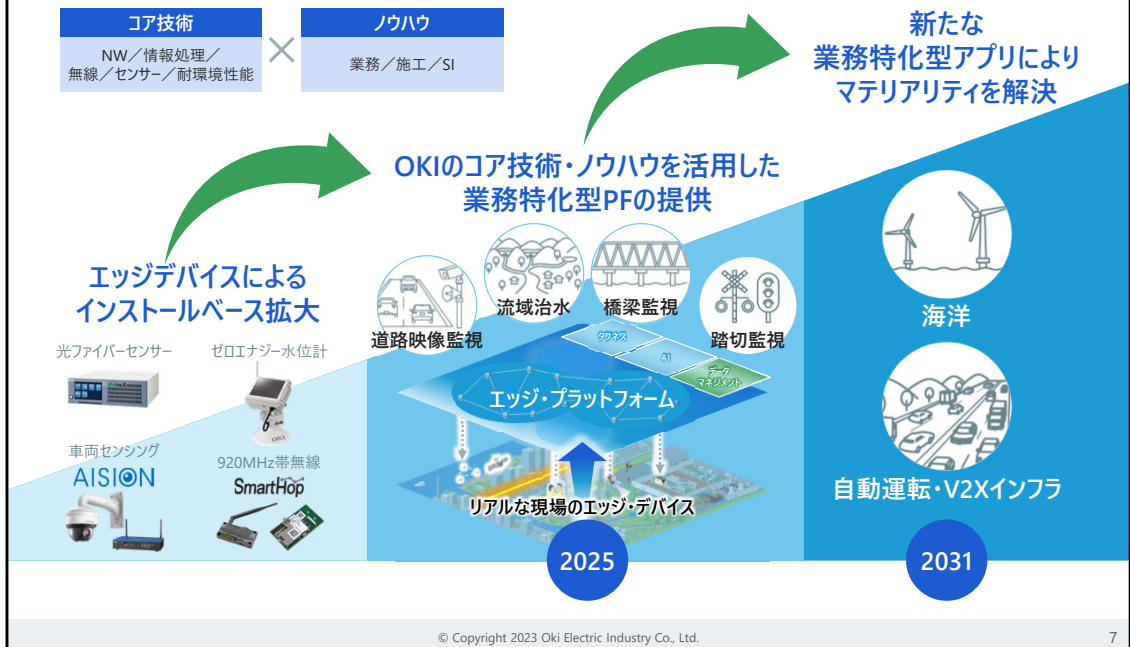
- 続いて2025中計の目標です。
- 2025年で売上1300億、営業利益95億で営業利益率7%を目標に活動していきます。
- 先ほどご説明したように外部環境が回復し、消防・防災・道路市場の更改案件を確実に獲得することで、トップラインを増加し、生産性向上により営業利益の絶対値と率を良化させます。
- そこで得た利益を目指す姿の実現に向けて積極的に投資をしていくことを考えています。
- グラフの濃い青の部分が更改案件で獲得するイベント売上、さらにグラフの一番上の新領域を立ち上げていくことを示しています。
- 厳しかった2022年の営業利益率4%を7%まで回復させます。

ベース拡大、プロダクト強化、グローバル展開、投資により  
中計2025の目標達成と目指す姿の実現を推進



- 続いてベース事業拡大と目指す姿の実現のために重点施策として4点あげています。
- 1つ目は、ベース事業の更改需要を確実に獲得していくために、顧客ニーズを取り込み差別化強化した新商品の投入をすることにより、更改イベントの売上を確保していくことです。
- 消防指令系では、激甚負荷分散対策や事案集計・レポート等の支援系システムの利便性を強化するための製品を開発中です。
- 次に、2番目として新領域の拡大のために、業務特化型PFでデータを活用して有効な情報を提供するソリューションで新領域への参入を図ります。これについてはあとで説明させていただきます。
- 3番目は、民間航空のポートフォリオ拡大と海外販路を開拓することでグローバル展開を進めます。
- 4番目は、ベース拡大、目指す姿の実現のためにも必要な投資を積極的に実施していきます。
- 以上の4点を重点施策として掲げて活動をしていきます。

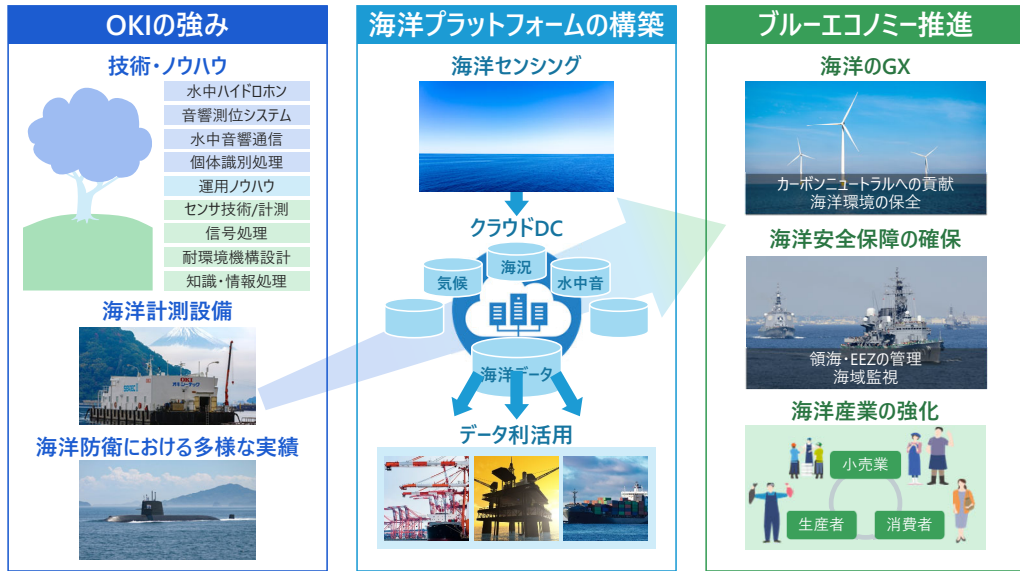
OKIの強みであるエッジデバイス・業務ノウハウ・コア技術を結び付け業務特化型PFとして提供



- 業務特化型PFについて、もう少し具体的に説明します。
- センシングのエッジデバイス、データ分析、AI活用の予測等を強みに、流域治水、鉄道・道路橋梁のインフラ監視等PoCを長期にわたり多数実施してきました。お客様のニーズがあることは確認できていますし、技術の実現性も確認しています。
- データを集め、分析データ利活用により、有効な情報に加工して情報を提供することで、各領域毎にデータをより多く集めてデータ利活用するPF化をすることにより展開をしていきます。PF化することで売り切りソリューションに加えてサービス販売の業態も実現できると考えています。
- 現在道路交通情報の分析、データ利活用を弊社で実施しておりますが、将来の自動運転普及時に向けて、運転制御、渋滞回避する交通流の制御等では更なる情報のデータ種類や量が増加しますし、リアルタイム性も必要であると考えています。OKIの強みを活かし、既に実用されている「交通情報データを活用した渋滞予測」や「ETC、ITSスポットなどのDSRC技術」とこれらのノウハウを活かしてV2Xインフラを見据えて活動していきます。

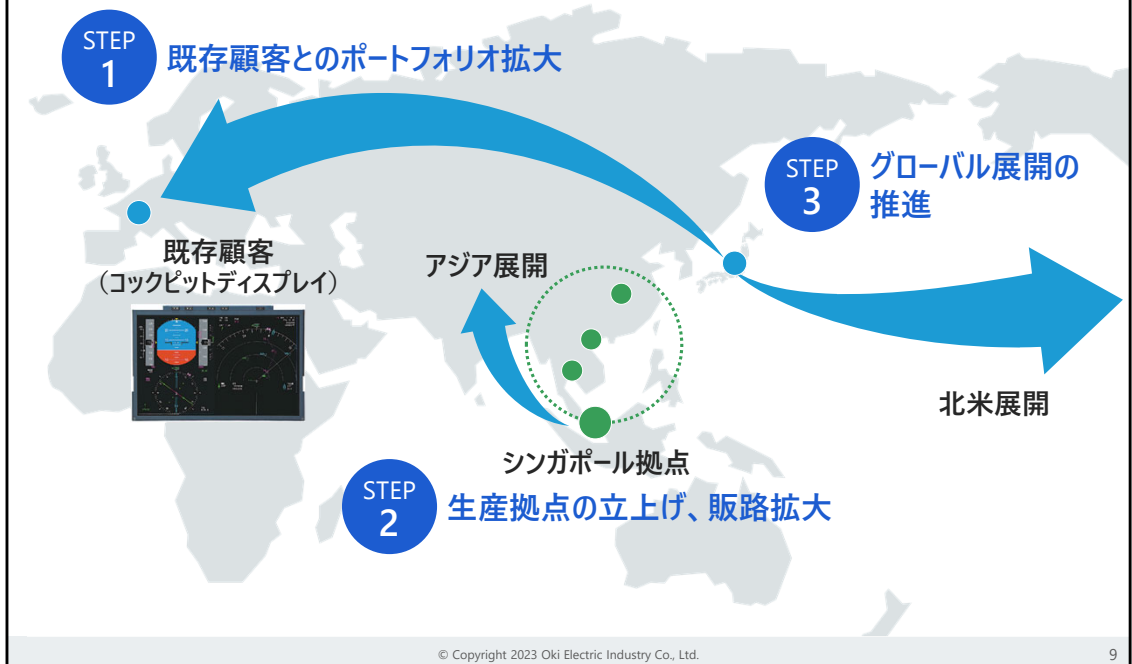


OKIの強みを活かし海洋の情報収集からデータ提供までを実現する海洋PFを構築  
ブルーエコノミーの推進に取り組みます



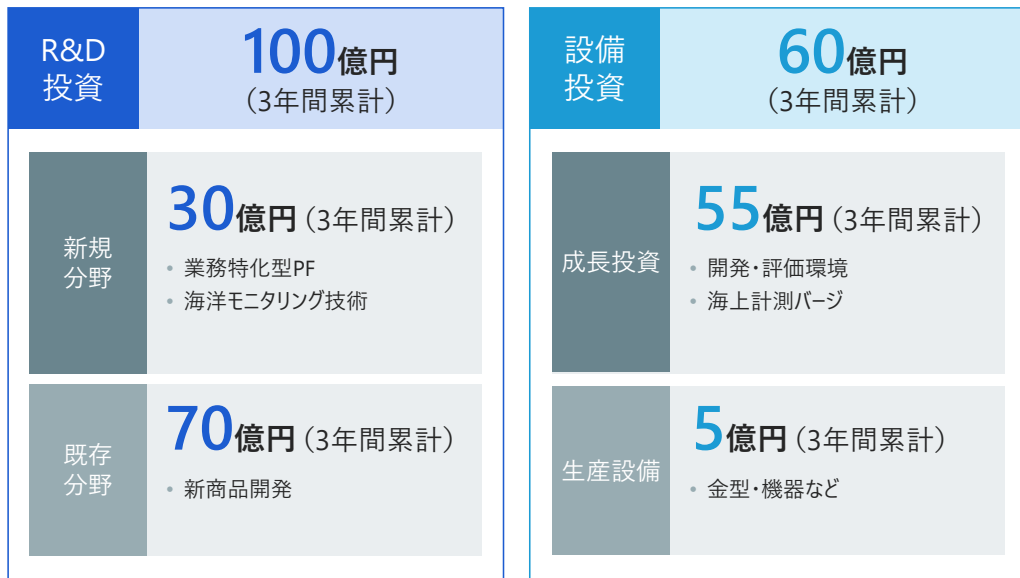
- もう一つ、OKIならではの強みを活かした新領域の海洋PFについて説明します。
- 水中音響、環境センシング、分析、水中音響通信、耐環境性のラギタイズ技術・ノウハウの実績を伴う強みと国内唯一の水中音響計測施設である「固定式計測バージ」を保有している環境的優位性を活かして新領域での海洋にてビジネス開拓を進めていきます。
- 海洋のセンシングデータを集め、処理・分析しデータ利活用するプラットフォームの展開での海洋の可視化により、海洋のGX、海洋安全保障の確保、海洋産業の強化などブルーエコノミーの推進に取り組みます。

## 民間航空ビジネスにおける既存顧客とのポートフォリオ拡大と海外拠点の販路活用



- 次にグローバル展開に向けた活動の推進について説明します。
- 現状、民間航空ビジネスの顧客に対して視認性が優れているコックピットディスプレイモジュールを提供しておりますが、OKIのコア技術を活用しコックピットディスプレイ以外の領域への拡大を進めます。
- 次に、シンガポールはグローバルビジネスの拠点として高く評価されている国でもあるので、生産拠点として立上げ、その後、そこを海外販路として活用することによりアジア展開を進めていき、その先には北米等へのグローバル展開を視野に計画を進めていきます。

## ベース・新規の拡大に向けた積極投資



- 最後に投資ですが、ベース・新領域の戦略を進めていくためにも積極的に投資していくことが重要であると考えています。
- R&Dとしては、新領域で海洋含む業務特化型PF、海洋モニタリング技術の開発等へ30億、ベース領域では差別化強化したソリューションの開発をするために70億を投資する計画です。
- 設備に関しても、ベース・新規の開発・評価環境と海上計測バージ更改へ55億、生産設備投資を5億実施する計画です。
- ソリューション創出するタイミングに確実に間に合うように計画的に開発を進めていきたいと考えております。

**OKI** *Open up your dreams*



社会の大丈夫をつくっていく。

© Copyright 2023 Oki Electric Industry Co., Ltd.